

分 野 : I 小児・成人ぜん息に関する調査研究  
① 高齢ぜん息患者の状況に応じた自己管理手法

I-①

委 託 業 務 名 : ライフスタイル適合型デジタルデバイスによる気管支喘息の新規管理法の研究と高齢者ぜん息患者への応用

調査研究代表者氏名: 福 永 興 壱

## 1 評価項目

5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)

|                         | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点  |
|-------------------------|----|----|----|----|----|------|
| (2) 研究成果目標の達成度          | 0人 | 1人 | 5人 | 0人 | 0人 | 3.17 |
| (3) 研究計画の妥当性            | 2人 | 2人 | 2人 | 0人 | 0人 | 4.00 |
| 個別評価(第3評価):(2)(3)の平均    |    |    |    |    |    | 3.58 |
| (6) 総合評価(第2評価)          | 0人 | 5人 | 1人 | 0人 | 0人 | 3.83 |
| 全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均 |    |    |    |    |    | 3.67 |

## 2 記述評価

・すでにPFメーターの限界が見え、日常臨床での使用も低下していたものに対して患者用アプリで日内変動、3回測定の変動幅を見える化した方法は新たな有用性が出てくる可能性が見出せることが期待される。

・ARIAよりアドヒアランスがよくなるかもしれない。

・進捗状況の改善が急がれる。

・やっと研究を遂行するための下準備が整ったとの事で今後の進展が期待できる。報告されている本研究については、参加施設の医師が専門医だけでなく専門医とは言えない医師の参加があることも重要であり、患者さんと共に開発されるシステムに関するfeedbackを非専門医からも得ることが、本システムを使い易く普及を促進できる内容にする上で不可欠だと思われる。また呼吸機能の評価に用いるSPiROについて既存の例えばミニライトによる測定結果を対象にvalidationした結果もあると信頼度が高まり、普及の促進に有用だと考えられる。

・興味深い調査研究であるが、喘息患者さんの多くは喘息の非専門医の診療を受けていることを考慮し、喘息の非専門医がこの調査研究の成果を有効利用できるように、「なかでも何に注意すべきか」を示せるような方向で研究を進めて頂きたい。

・被験者の研究登録増加を含め、更なる努力を期待する。

・高齢気管支喘息患者のなかで、一定数の患者がデジタルツールへの親和性があるものと思われ、今後その割合は増加していくことが予想される。本課題は、その潮流に即した内容であり、革新的といえる。

・患者用アプリの開発等、研究が順調に進捗していると評価できる。

研究目的に示している社会実装に向けて、データを蓄積しつつ、問題点を抽出してより良いシステムになることを期待する。